

## 授業科目 生理学実習

【担当教員名】 中村 藤夫、大山 富三	対象学年	1	対象学科	臨床	
	開講時期	後期	必修選択	必修	
	単位数	1	時間数	45	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】 生理学で学んだ人体の働きを個々の事象を見ることによって生命維持の基礎を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 正常な循環機能を説明できる。 2. 正常な呼吸機能を説明できる。 3. 血液の生理機能を創造する。 4. 消化酵素の働きを創造する。 5. 正常な感覚機能を説明できる。 6. 体温の正常機能を説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1-2	血圧・心拍数の測定 1 - 安静時および体位変換			1	講義・実習
3-4	血圧・心拍数の測定 2 - 運動負荷および氷水刺激			1	講義・実習
5-6	装置による模擬採血実習（一般採血針、透析用穿刺針）			3	講義・実習
7-8	呼吸機能の測定 1（スパイロメータ / 心電計）心電計担当 生駒			2	講義・実習
9-10	呼吸機能の測定 2（スパイロメータ / 心電計）心電計担当 生駒			2	講義・実習
11-12	浸透圧計 / 血糖値の測定 - 糖負荷と運動負荷			3	講義・実習
13-14	血液の機能			3	講義・実習
15-16	消化の作用（アミラーゼ）			4	講義・実習
17-18	皮膚感覚 - 感覚点の分布 - / 視覚機能の測定 - 盲班, 対光反射 -			5	講義・実習
19-20	知覚診断 / オージオメーター			5	講義・実習
21-22	血液の観察			3	講義・実習
23-24	体温の測定（腋下 / 鼓膜 / 口腔内）			6	講義・実習
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	臨床検査学講座 生理学第2版	佐藤 建次、北村 清吉		2004・2,730円・2004年2月	
参考書					
その他の資料	資料配布				
【評価方法】 レポート (50%) 定期試験 (50%) は実技試験と口頭試験を実施する。 未実習者のレポート提出は認めない。		【履修上の留意点】 授業計画に沿った事前学習を行い、生理学で学んだことをしっかりと身につけて実習に臨むこと。 実習には相応しい容姿と態度で臨み、積極的な実習に取り組むこと。 生理学実習は他の科目に関する基礎実習を含むため、生理学の参考書としては、図書館にて多くの本を閲覧し、実習内容について知識を深めて欲しい。			